

## 世界の人びとのための J I C A 基金活用事業 活動報告書

1. 業務の概要	
(1) 事業名	ラオスの人々への「ツボクサ」を用いたハーブ製品加工技術指導のためのワークショップ～基礎編～（チャレンジ枠）
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人 Mai LAOS Hokkaido
(3) 実施期間	1 年間（2022 年 4 月 6 日～2023 年 4 月 5 日）
(4) 実施国	ラオス人民民主共和国
(5) 活動地域	ヴィエンチャン県ポンホーン郡ポンサイ村
(6) 活動概要	<p><u>①活動の背景：</u></p> <p>当法人の発起人が別法人の音楽教育支援活動でラオスを訪問した際に、ラオスの児童教育の実態に触れ、各家庭が慢性的に抱える貧困のため、子どもの教育はもとより日々の健康的な生活が望めない人々と多く出会った。同時に、ラオスの豊かな自然が育む良質な多くのハーブに着目し、ハーブ類の生産、市場での扱いなどについてラオスの小農家に話しを聞き調査を進めた。その結果、ラオスの農家等におけるハーブの六次化が大きな可能性のある分野でありながら、まだ発展の途上にあることがわかってきた。</p> <p>私たちは、小農家の農民が市販流通に適した加工技術と知識を身につけ、自律的な高付加価値商品の生産販売が可能になれば、その生計が大いに向上すると確信し、そのために食品加工を行うための基本的な衛生観念を身につけ、ハーブそのものの知識、長期保存可能な加工技術の習得機会を得る場としてワークショップを計画した。</p> <p><u>②活動の目標：</u></p> <p>ラオスの農業従事者をはじめとする人々が身近な植物の専門知識と加工技術を身につけ、農産品の高付加価値化の基礎知識、関連分野への就労機会を得るための次の基礎的な指導を行う。</p> <p>受講者にとって身近なハーブであるツボクサ（パクノー）を用いて、</p> <p>①オンライン講座によりツボクサの植物学的知識や活用例を学習する。</p> <p>②技術演習により衛生と保存に配慮した加工・梱包技術を習得する。</p> <p>③ラオスの国内市場や日本をはじめとする海外で流通可能な商品製造のための基礎的な知識・技術を身につける。</p>

## 2. 業務実施結果

### (1) 実施した内容

#### 【実施内容①】オンライン講座：ツボクサに関する知識

- a. 日程：2022年9月26日(月)、27日(火) 2日間
- b. 時間：12:00-14:00 (現地時間は10:00-12:00)
- c. 会場：ラオス人民民主共和国 ヱィエンチャン県 ポーンホーン郡 ポンサイ村  
(ポンサイ村では受講者一人ひとりがスマートフォン等を持っているとは限らないため、実技演習を行う会場に集まっていたいただき、ウェブ会議システム Zoom(ズーム)を利用して、札幌との双方向のやりとりが可能な状態とした。)
- d. 参加者：20名 (他に通訳者1名)
- e. 講義内容：9/26 ・オリエンテーション ・ ツボクサの生態と特徴  
9/27 ・世界におけるツボクサの利用 ・ 技術演習のガイダンス

#### 【実施内容②】技術演習「加工・製造プロセスの実習」

- a. 日程：2022年10月10日(月)~10月14日(金) 5日間
- b. 時間：10:00-16:00 (12:00-13:30は昼休憩) \*10/10のみ13:30-16:00
- c. 会場：ラオス人民民主共和国 ヱィエンチャン県 ポーンホーン郡 ポンサイ村  
(受講生と通訳)
- d. 参加者：19名 (他に通訳者1名)
- e. 講義内容：10/10 ・オリエンテーション、衛生指導  
10/11 ・ ツボクサの洗浄と選別、菌検査、乾燥  
10/12 ・ ドライハーブの計量とパッキング、ティーバッグのための粉碎、計量・パッキング  
10/13 ・ 製品表示のラベル作り、製品仕上げ  
10/14 ・ 感想発表 ・ 修了式

### (2) 実施成果：

- ① 10月の演習時、受講者から「オンライン講座でツボクサには健康のために重要な成分がたくさん入っていることを知り、日常的によく食べるようになった」という声を聞くことができた。オンライン講座でツボクサの植物学的知識を学んだ成果と言える。
- ② 技術演習の初日に手洗いの重要性を伝えると、その日以降、会場に入る際には念入りに手を洗うなどして、しっかり取り組んでいた。計量やパッキングなどの作業では、手袋やキャップ、エプロンを装着し、食品加工の緊張感を持つとともに、食品粉碎機でのツボクサの粉碎、シーラーを用いての梱包を一人ひとりが行い、衛生と保存に配慮した加工・梱包技術を習得することができた。
- ③ 製品表示に必要な項目について学び、一人ひとりが作ったドライハーブとティーバッグの製品に製品表示のラベルシールを貼るなどして、ラオス国内や日本をはじめとする海外で流通可能な商品とするための基礎的な知識・技術を身につけた。
- ④ ①~③により受講者らは、自らの手で農産品の加工が可能であることを実感し大きな自信を得たとともに、今後の現金収入の途の新たな選択肢を獲得した。

### (3) 得られた教訓など：

参加者 20 名のうち 18 名は無職で、多くの家庭が庭や空き地でその日に採取した草や昆虫などを食べ、余剰分があれば路上で売るという、自給自足の暮らしを営んでいた。その姿は実際に数日を共に過ごさなければ知ることができなかった村人の貧困の実態である。

金品の寄付など目の前の不足を刹那的に満たすサポートのみならず、計画的・自主的な事業運営ができる人材育成の重要性を感じた。

### (4) 今後の活動・フォローアップの方針：

ワークショップ終了後、消耗品の補充と製品加工の状況確認等のサポートのため、すでに 2 度に渡り自費で現地を訪問している。事業実施期間終了後も引き続き、技術を身につけた村人たちが製品作りを継続的に取り組めるようリーダー人材の育成をサポートするとともに、国内外での販路開拓についてフォローアップしていくつもりである。

## 3. その他(エピソード・感想・写真など)

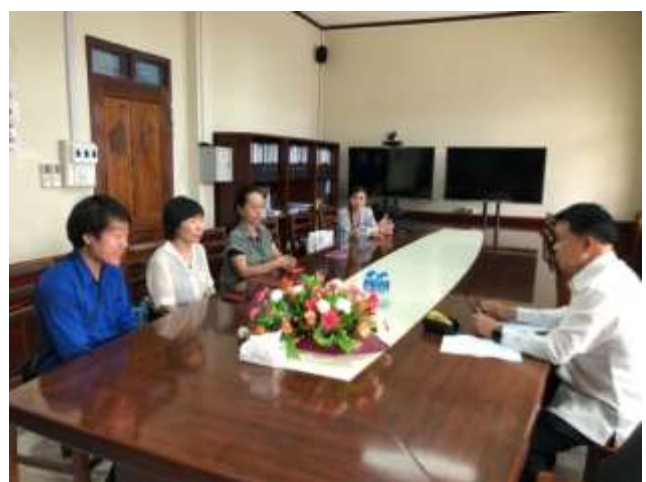
### (1) 活動中のエピソード・感想など

技術演習終了後、ヴィエンチャン県商工局の副局長から「他村でもこの講習を実施してほしい。製品作りの仕事による収入があれば、子どもたちも学校に通い続けることができる」と、期待を込めたお話を頂いた。また国の商工省貿易促進局の局長からは「少数民族が暮らすさらに貧困な他県においても、今回の事業をモデルにした活動を期待しています」と前向きな言葉を頂き、今後の取り組みのヒントになるとともに、事業継続の励みとなった。

### (2) 活動の写真



1: 商工省にて局長に資料を手渡す代表の長嶺  
シェンクアン県にて説明を行う



2: シェンクアン県にて説明を行う



3: 村長から村の説明を受ける



4: 実習会場



5: 会場オーナー（赤いTシャツの女性）に事業説明



6: オンライン講座の様子（ポンサイ村）



7: オンライン講座の様子（ポンサイ村）



8: オンライン講座の様子（PC画面）



9: 実習の概要を説明する代表の長嶺



10: 実習の受講



11: 汚れが分かりやすいように白いタライを用意した



12: グループごとにツボクサの洗浄を行う



13: 選別の指導を行う副代表の三重野  
(青い服)



14: 選別後、ボトルドウォーターで最後の洗浄



15: 菌検査（結果は翌日）と乾燥作業の様子



16: ドライハーブの計量とパッキング



17: ティーバッグ作り (左) 粉碎

(上部中央) 計量  
(下部中央) パッケージへ封入

(上部右) ティーバッグへ封入  
(下部右) 圧着、パッキング



18: パッケージ表示の  
説明をする長嶺



19: 賞味期限表示のスタンプに四苦八苦しながらも完成



20: (上段3枚) 修了証を受け取り、実習の感想を述べる参加者



20: (下段) 全員で記念撮影



21: ヴィエンチャン県商工局でP C (写真) を用いて報告を行う代表の長嶺



22: (上段) 商工省にて、局長、貿易局担当者に対し報告を行う



22: (下段) 2種類の成果物に対して、どこでどのように販売していくのかなど、具体的な質問が相次いだ。

**(3) JICA 基金活用事業を受託したことで団体の成長につながった点・良かった点**

今回 JICA 基金活用事業を受託したことで、任意団体の時から培ってきたラオスでの人脈やこれまでの経験を活かした事業を実現することができた。得意分野の技術移転能力を確立できたことも良かった点である。また、今後の課題が炙り出されたこと、ラオスの一般の人々や行政機関が当団体に期待していることを知ることができ、団体の成長につながった。